

# 百人一首 脳トレ 穴埋め 第3回 (二十一～三十番)

上の句を読んで、下の句をひらがなでマスに書きましょう。

月 日 名前

二十一番 素性法師

今来むといひしばかりに長月の

二十二番 文屋康秀

吹くからに秋の草木のしをるれば

二十三番 大江千里

月見れば千々にものこそ悲しけれ

二十四番 菅家

このたびは幣も取りあへず手向山

二十五番 三条右大臣

名にし負はば逢坂山のさねかつら



# 百人一首 脳トレ 穴埋め 第3回 (二十一～三十番)

上の句を読んで、下の句をひらがなでマスに書きましょう。

月 日 名前

二十六番 貞信公

小倉山 峰の紅葉葉 心あらば

二十七番 中納言兼輔

みかの原 わきて流るる いづみ川

二十八番 源宗于朝臣

山里は 冬ぞさびしさ まさりける

二十九番 凡河内躬恒

心あてに 折らばや折らむ 初霜の

三十番 壬生忠岑

有明の つれなく見えし 別れより



## 百人一首 脳トレ 答え 第3回 (二十一～三十番)

下の句のよみかたと、もとの書き方です。

二十一番      ありあけのつきをまちいでつるかな

有明の月を      待ち出でつるかな

二十二番      むべやまかぜをあらしといふらむ

むべ山風を      嵐といふらむ

二十三番      わがみひとつのあきにはあらねど

わが身一つの      秋にはあらねど

二十四番      もみぢのにしきかみのまにまに

紅葉の錦      神のまにまに

二十五番      ひとにしられでくるよしもがな

人に知られで      くるよしもがな

二十六番      いまひとたびのみゆきまたなむ

今ひとたびの      みゆき待たなむ

二十七番      いつみきとてかこひしかるらむ

いつ見きとてか      恋しかるらむ

二十八番      ひとめもくさもかれぬとおもへば

人目も草も      かれぬと思へば

二十九番      おきまどはせるしらぎくのはな

置きまどはせる      白菊の花

三十番      あかつきばかりうきものはなし

暁ばかり      憂きものはなし

